

研究分野のキーワード：デザイン、プロダクトデザイン

研究紹介

「デザイン」という言葉を聞いて連想される事柄は何でしょうか？ この問いを大学生に投げかけると、返って来るのはファッションやイラスト、ポスターなど、比較的デザインに対するイメージが集中しています。これを客観的に考察すると、「自分の興味の対象や、生活の中で身近に感じているデザインらしきもの」と言えるかも知れません。ところが、あなたが服を買う時、自分の好みや流行に左右されながら選んでいるものの、わざわざ「デザインの良いシャツ」などとは余り言わないことでしょう。これは即ち、デザインが良いものが当たり前となった時、人々は意識的には「デザイン」という言葉を使わなくなるということが言えます。例えば最初の問いに対する最も典型的な答えである「ファッション」は、年頃の大学生にとってはデザイン云々に関わらず興味の対象であるし、デザインという言葉を意識せずとも、無意識のうちにデザインを感じているものとも言えます。このことを逆に考えると、意識的に「デザイン」という言葉を使う物事にこそ、力を入れて研究をするべきなのかも知れないと言えます。

ではここで改めて「デザイン」とは何か？と問われた時、先に挙げられたファッション、イラスト、ポスターなど、皆さんが見ている色や形そのもの、即ち目に見える表層というのはデザインの一部分でしかない、とすることができます。これはデザインという言葉が単なる日本語の「意匠」に留まらず、もっと広く深く、日々膨張していると捉えると理解しやすくなります。例えば、「地域のデザイン」と掲げられた時、具体的に見える色や形がイメージ出来なくても、心理的に美意識を感じて人々は行動を取るようになります。もしかしたら街のゴミが減るかも知れません。もしかしたら安全な街が作られるかも知れません。このことから、デザインとは単に色や形のことだけではなく、もっと広く深いものであることが分かることでしょう。また、デザインの対象となる「モノ」は「コト」を実現するための媒体であると捉えると、デザインをより深く考えることができます。例えば「楽しい夏休みを過ごしたい」と考え、旅行を計画します。旅行をより素敵に過ごしたいと考え、行き方や、着る服、靴、鞆などを選ぶことでしょう。ここでデザインの対象となる「モノ」は服や靴、鞆、場合によっては車や電車、飛行機などかも知れません。けれどもそれらは、「コト」の実現、即ち楽しい夏休みを過ごすための媒体なのです。実際のデザインの現場でもこのように具体的なストーリーを考え、コンセプトを練り上げてデザインをしていくというのは、良く使われる手法でもあるわけです。このように考えてみると、デザインをもっと深く探求してみたくありませんか？

最後に、「恋人に贈る花を選び始めた瞬間にデザインは始まる」といったのはデザイン界の巨匠エットレ・ソットサスです。この言葉の中にはデザインの根源や目標、もっと言えば「愛」など、様々な意味が込められています。皆さんもデザインを通して、この言葉が語る深い意味と一緒に考えてみませんか？